

岩手・沖縄

かけはし

第 21 号

平成23年6月30日発行

奥州市江刺区愛宕字八日市69-4

岩手県農産物改良種苗センター内

(TEL:0197-35-8505 FAX:0197-35-0304)

目 次

- | | | |
|-----------------------------|---------------|----------|
| 1 東日本大震災と交流協会の活動 | 岩手・沖縄かけはし交流協会 | 会長 高橋 洋介 |
| 2 石垣市に「石垣・岩手かけはし交流協会」が設立される | | |
| 3 第9回石垣島マラソン大会で岩手県選手が5連覇達成 | 岩手・沖縄かけはし交流協会 | 事務局 |
| 4 かけはし交流シニアサッカー大会が開催される | 岩手・沖縄かけはし交流協会 | 事務局 |
| 5 石垣島かけはし交流記 | 岩手・沖縄かけはし交流協会 | 事務局 |
| 6 「絆」を翼にのせて（かけはし物産企業組合誕生） | 盛岡走友会 | 芳賀 一郎 |
| 7 事務局だより | かけはし物産企業組合 | 種市 智也 |
| | 岩手・沖縄かけはし交流協会 | 事務局 |

東日本大震災と交流協会の活動

会長 高橋 洋介

去る3月11日に突然三陸沿岸を襲った東日本大震災は、未曾有の被害をもたらしました。会員の中には、ご家族・ご親戚や関係者の方が津波に襲われた方もおられるのではないかと、心を痛めております。被災地に居住する沖縄県出身者の中には亡くなられた方や津波被害を受けた方もおります。被災された方はもとより、ご家族の皆様に対し心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

災害当初の混乱も収まり電話も通ずるようになると、早速沖縄の皆様方からお見舞いや激励の言葉を頂きました。「私の方（北上市）は内陸だから大丈夫です」と言われ、映像とのギャップに驚いた方もいたと思います。いろいろお声掛け頂き、ありがとうございました。

大震災発生直後には、交流協会に対し琉球新報社より在住沖縄県人の安否確認の依頼があり、調査をいたしました。その過程で、在岩手・沖縄県人会「くぬぶの会」に入会していなかった方の存在を知ることができました。また、沖縄県は大規模な避難者受け入れを表明し、その協力要請が交流協会にありました。これには、在沖縄県人会「美ら・めんこい会」と共に働きかけを行いました。残念ながら大勢の被災者の避難には至りませんでした。さらに、沖縄県黒砂糖工業会から沖縄県庁を通じて黒糖2tの提供があり、被災地へ配送いたしました。最近では、加賀哲彦沖縄県人会長を通じて南城市立佐敷中学校関係者や生徒から送られた義援金と千羽鶴を大植中学校へ届けています。また、8月には那覇太鼓グループが被災地をエイサーで激励したいという申し出も協会に寄せられています。

沖縄現地では、1月に発足したばかりの「石垣・岩手かけはし交流協会」や沖縄県人会がすぐさま街頭に出で義援金の募集活動を展開してくれました。その後、種籾生産に関わった沖縄県庁OBの皆さん、八重山水稲部会、J A沖縄八重山地区の皆さんも募金活動を行って下さいました。八重山高校からは姉妹校である盛岡第四高校に千羽鶴と激励メッセージが届けられ、第四高校PTAの手により被災地へ届けられました。また、その後八重山高校PTAのOB会からは3000個のサーターアンドギーが第四高校PTAに届き、支援校である宮古北高校に届けられました。

琉球新報社は、去る5月13日に那覇市において「今後沖縄はどの様に対処すべきか」をテーマにフォーラムを開催し、私がパネリストとして招かれ、息の長い支援活動を維持するための提案をしてきました。例えば、県産品購入活動にしても一過性で終えることの無いよう、沖縄・岩手の両県に常設店を開設するようなどころまで持っていくとか、物資支援では夏場に向けた「かりゆしウエア」やビタミン不足を補うシークアーサージュースのように、将来に向け沖縄県の理解促進に役立つようなことを考えてみてはどうかと提案いたしました。観光交流は是非取り組んで欲しいとお願いしましたが、タイミングが良く、6月8日に沖縄からの観光応援団133名が来県し、交流協会としても歓迎いたしました。

この様に、今回の大震災においては、沖縄県から公的ルート以外の多様な形で岩手に対しご支援を頂きました。その中で、当かけはし交流協会は、まさに岩手と沖縄のかけはしとしての役割を果たすことが出来ました。考えてみれば、この様な多様な支援が展開されたのは、これまでの長い「かけはし交流」があったればこそと思われます。これまでの「かけはし交流」の事績が、今回の沖縄からの支援活動として大きな成果をもたらしたのと言えるでしょう。感慨ひとしおのものがございます。

当かけはし交流協会も今年で10年目を迎えることとなりますが、節目の年に大きな花を咲かすことが出来たのは、これもひとえに会員を始め、温かい目で交流活動を支援して頂いた関係者のご協力の賜物と心よ

り感謝申し上げます。今後は、この「かけはし交流」が両県にしっかり根付くよう安定化に向けて取り組むことが大切と考え、心を新たにしている所です。

最後になりましたが、会員の皆様には息の長い被災地への支援活動を含めた協会活動の新たなスタートに際し、今年度予定しております資金増資にご協力下さいますよう、よろしくお願いいたします。

石垣市に「石垣・岩手かけはし交流協会」が設立される

岩手県民の「かけはし交流」にかける想いに応え、平成23年1月10日に石垣市に「石垣・岩手かけはし交流協会」が設立されました。これまでは11月の「石垣島まつり」や1月の「交流ツアー」等の度に現地の有志の方々から対応して頂きましたが、毎回の大勢の訪島に備えるため、各界10名の有志の呼びかけにより、この度の交流ツアーに合わせ設立されたものです。昨年からは市長に就任された中山義隆市長にもこれまでの交流の経緯を理解して頂き顧問就任の了解を得たことにより、石垣市としても側面から両交流協会活動を支援して頂けるものと思っています。

なお、交流会の席上、今までの交流の功績を讃え、石垣市長より両団体の10名に感謝状が贈られました。また、協会の理事さんの方々は今までの交流で対応して頂いた団体の他、その他各界からも協会設立に賛同頂いたものと大変心強く思っております。

当協会としても、益々両県の交流に発展出来るよう、交流の窓口として両県民の皆さんに情報提供できればと思っておりますので、何かと情報提供して頂ければ幸いです。

第9回石垣島マラソン大会で岩手県選手が5連覇達成

平成23年1月23日、石垣市で開催された第9回石垣島マラソン大会において、北上マラソン大会派遣選手の目移和行選手（雫石町）が優勝し、岩手県選手5連覇（目移選手自身2連覇）の偉業を成し遂げました。

本大会には岩手県からフルマラソンに16名、ハーフマラソンに4名、10Kレースに3名の計26名が参加して、他県の3000名を超える選手と交流を図りながら最高気温23度と少し暑すぎる中、皆さんそれぞれレースを楽しんで走りました。

当日の夜は、「石垣・岩手かけはし交流協会」主催の交流パーティーが開催され、石垣市民と岩手からのツアー参加者300名程の大パーティーとなり、それぞれの余興などを披露し予定時間を過ぎるほどの賑やかさで充実した交流が図られ、お互いに益々の発展を誓いながら散会しました。

主な入賞者は下記のとおりです。

フルマラソンの部

| | | | |
|----|------|--------|---------------------|
| 男子 | 総合1位 | 目移和行選手 | 2時間36分00秒（年代別30代1位） |
| | 総合2位 | 藤原孝選手 | 2時間38分00秒（年代別20代1位） |
| 女子 | 総合3位 | 大越麻子選手 | 3時間26分00秒（年代別40代2位） |

ハーフマラソンの部

| | | | | |
|----|-------|----|---------|-----------|
| 男子 | 40代の部 | 1位 | 松岡 修二選手 | 1時間26分00秒 |
|----|-------|----|---------|-----------|

10Kの部

| | | | |
|-------|----|--------|--------|
| 70歳以上 | 2位 | 村上朝雄選手 | 59分50秒 |
|-------|----|--------|--------|



かけはし交流シニアサッカー大会が開催される

平成23年2月19日～20日の日程で、石垣市において「かけはし交流サッカー大会」が開催されました。この大会は、平成20年2月に岩手、石垣市の4チームが参加し1回目が開催されたのを受け、今後継続的に開催するべく、その開催方法を模索しながら開催されたとのことでした。今年は沖縄本島、大阪市のチームも参加するなど6チームにより交流を図ったとのことでしたが、岩手からは盛岡市サッカー協会の選手を中心に県内の有志によりチーム編成し、選手応援団20名の参加でした。大会後は約200名の参加により交流パーティーが開催され、参加者は来年度以降も継続的に開催しようとの確認をし、再会を誓って散会しました。試合結果は下記の通りですが、益々参加チームが増えることを期待しております。

| | | |
|---------|-----|-------------|
| 岩手SS交流団 | 5-0 | 大阪ビクトリーズシニア |
| 岩手SS交流団 | 2-0 | 大阪ビクトリーズシニア |
| 岩手SS交流団 | 4-0 | 浜マリンFC |



石垣島かけはし交流記

盛岡走友会 芳賀一郎

1 きっかけ

「石垣空港に着いたら、まず何をしよう。」

「トイレで下ズボンを脱ぐんだよ。」

以前参加した走友からそう聞かされ、いつか行ってみたいと思っていました。

今年はチャーター便で、花巻発着が決め手で夢が実現しました。

2 真喜良小学校訪問

石垣空港では、三線と琉球民謡で出迎えられ、岩手選手団のための演奏と聞き、歓待ぶりに驚きました。始めに、空港から洋介会長さん、吉田さんとともに地元小学校に雪のプレゼントを運びました。午後4時近くでしたが、小学校の中庭で全校児童が我々を待っていました。会長さんが岩手の冬の様子をポスターを見せながら説明したあと、クーラーボックス10個の雪のふたが開けられました。

「うわ〜」「冷たい」「おいしい」

岩手にありふれている雪がここでは珍しい、貴重なものだと思います。子どもたちは、雪を丸めて手に包み、大事そうに溶けるまで持っていました。15分くらい歓声を上げ雪で遊んだ子どもたちは、「今度は、岩手に遊びに来て下さい。」

という会長の言葉を胸に、満足げに家に帰って行きました。



3 バイクで島1周

次に2日目、110CCのバイクをレンタルし、「名蔵→川平→米原→伊原間→玉取→新空港予定地」と90kmの旅をしました。曇り空で風が強かったけど、快適なツーリングでした。気軽に自由に行動できる、しかも真冬に。岩手では考えられません。

川平の海の美しさと米原椰子のたくましが心に残りました。写メで家族に現地から報告しました。岩手から何千キロ離れていても、同じ日本ですから携帯もバッチリつながり、家族内通話無料で、なんか得した気分でした。

市街地に戻ってから、地元の酒屋で泡盛を1本500円で4本も買い、バイクでホテルまで運びました。バイクを返す時、店の方がとても親切で、翌日のマラソン参加で岩手からです、と言うと記念のおみやげをうちの子どもの分、3つもくれました。

4 フルマラソン

「石垣・岩手かけはし交流協会」さんが、JA八重山と書かれた大きいテントを選手のために2張立ててくれ、そこでゆったりと準備しました。個人参加にはないサービスで満足しました。

レースは、30kmまではキロ5分40秒で手堅く行き、残り12kmも6分以内のペースでしのぐという作戦でした。前後しながら走った沢田選手団長を見習い、「岩手からです、かけはし交流です。」とアピールしました。沿道からは温かい声援をいっぱいもらいました。岩手とは特別な関係なんだと感じました。

予定のペースで35キロまでは脚のばねが残り、快い走りでした。2ヶ月で530km走り込んだ成果です。しかしラスト5キロで暑さのせいかわペースがキロ6分以上に落ちました。頭や太もも、ふくらはぎに水をかけましたがペースは戻らず、苦しい走りになりました。普段の5キロはすぐ、ひとつ走りなのに、競技場の遠いこと。4時間3分で歓喜のゴールを迎えました。まあ気温23℃ではしょうがない、諦めずに最後まで自分を奮い立たせて走りきったことでよしとしました。

ゴール後、添乗員さん達が差し入れのビールやバナナをたくさん準備して待っていてくれたのも嬉しかったです。おいしくいただきました。完走の感想を選手同士話したり、後からゴールする仲間をねぎらったり(冷

やかしたり)して、団体旅行はいいなあと思いました。

5 交流パーティー

洋介会長さんの

「かけはし交流は岩手の片思いですかねえ。」

という一言がきっかけで、石垣側の参加者が200人にも増え、岩手の60人と立派なホテルで大宴会をしました。なるべく向こうの方々と話すように心がけ、若い市議さんや観光店の山田さん、飲食店のおばちゃん、タクシーの小池さんと親交を深めました。遠く離れて、気温が30℃も違って、同じ日本なんだ、安心して暮らせるんだと思いました。海外に行くと、何となく不安で緊張しているのと大違いです。石垣牛のシチューや珍しい料理、甘い果物、冷えた泡盛などおいしくいただきました。

6 まとめ

冬だけ石垣島に住みたくなりました。

雪の岩手にかえりたくない、と同宿の伊藤さん、齋藤さんが言っている通りの気持ちでした。あの気候、風土にあこがれて移住者も結構いるそうです。

まだ、石垣島かけはし交流に参加したことのない皆さんにお勧めします。満足の旅を保証します。こんな日本があったんだ、と思います。

岩手にはないものが多くある石垣島に、大あっぱれ！ です。

花巻空港で、下ズボン再びはき、私の旅は終わりました。

「絆」を翼にのせて (かけはし物産企業組合誕生)

かけはし物産企業組合 種市智也

2011年55歳の1月、元旦から降り続いた数10年ぶりの大雪が、北向きの屋根に厚く残る真冬の早朝、白い排気ガスのタクシーは心地良いラップテンポを奏でていた。

朝焼けに彩られた朱色のつららに見送られ、盛岡駅新幹線ホームを経て仙台空港からテイクアウトし、眼下に日本一高いバースデーケーキを越えて一路南国石垣へと心は馳せた。

話題の渦中にあるJAL機はいつものように幾分か乱暴なランディングのあと無事石垣空港へ着陸した。

石垣へはマラソンスタッフとしてや個人的にも何度も訪れていたが「石垣まつり」への参加は2回目である。

去年は出店場所や好天に恵まれ売り上げは順調に伸びた。

特にボランティアでお手伝いいただいた請福酒造社長始め漢那専務、社員一同様、八重山高校のご父兄様、個人では小池様等々大勢の方々の汗のおかげで完売させていただきました。

今年も何とか完売し、恒例の花火を見ながら達成感を味わいつつ、おいしいビールをのどに流し込もうと思っておりましたが、物語はここから始まったのです。

「石垣まつり」初日、朝から強風と雨、仮設テントが何度かはがれ、そのたびにガムテープで補修するが、こんどはテントに貼ったメニュー表が飛んでいく、それでも応援に駆けつけていただいた石垣の皆さまにだいたい助けてもらい、なんとか販売の準備が整い、安堵するも、間もなく信じられない言葉を聞く、盛岡から野菜・果物を満載した貨物船が悪天候のために未だ石垣港に着かないという情報でした。

2日間しかない販売日の内、初日の午前中販売は断念せざるを得ない状況となった。

焦るスタッフをしり目に冷蔵コンテナが姿を現したのは午後をだいたい回ってからであった。

翌日も雨はさらに強くなりようやく小ぶりになったのが昼過ぎてからであった。

そんな悪条件の中、胸を熱くさせたのがお手伝いで来ていただいたアルバイト高校生のご父兄の方々でした。

土砂降りの雨の中、ずぶ濡れになりながら、朝から夕方まで傘もささずに大声で「いらっしやいませー」「いわてのリンゴはいかがですかー野菜はいかがですかー」休むこともせず、「遠いところから届けてもらっているんだから」「岩手からの真心を売り残すわけにはいきませんから」と……………私は泣いてしまいました。

自分の考えていた事が間違っていないことを確信したのはこの時でした。

そんな皆様の多大なるご支援のおかげでリンゴが完売し、野菜が売り切れ、コメも売り切れ、全てが午後4時頃には完売したのです。

心地よい疲れと打ち上げ会に呑んだ泡盛のアルコール臭を乗せて岩手に帰還し、余韻も冷めやらぬ3カ月後、石垣マラソンツアーのスタッフとして再び石垣へとチケットを握りしめたのです。

今回のお手伝いにはもう一つ大きな目的がありました。私は10数年前に那覇、石垣の旅行をした時に病気にかかってしまいました。俗に言う「沖縄病」です。

この病気にかかり、2度3度と沖縄に行くようになり、「私の先祖は沖縄にいた」と言い出したら重症であると本に書いてありましたが、まさにまったくその通りであったのです。

今現在その病は治おどろか益々悪化の一途をたどっております。

そんなこともあり、いつかはこの地に移住しこの地で生涯を終えたいと思うようになり、そのためにはどうすれば良いかを考えるのが日課となっていました。

その頃「かけはし交流会」を知り、身分をわきまえず元岩手県副知事の高橋会長のもとに飛び込み、おもいを伝えたのが7年前でした。

なんとか岩手と沖縄を結び付ける事業は無いかと、全国展開している「わしたショップ」の宮城社長に会いに行きいろいろとアドバイスをいただきました。

また、単身那覇へのりこみ「沖縄そば」サンフーズの工場やゴーヤ生産農場等々、の訪問を重ね、しまいにはまたもや高橋会長にご無理をお願いして、沖縄JA 赤嶺理事長や宮古支庁長に会わせていただきました。

その甲斐あって、たくさんの方々と知り合うこともでき、個々ではありましたが取引も成就いたしました。

しかし、何かが違っていました。

紆余曲折し悩みぬいた結果、結局原点に立ち返り「何がしたいのか」を自問自答した時に浮かんできたのが、奇しくも「絆」であったのです。

石垣からいただいた「恩」に対して報いることは「何か」を考えた時に「絆」という文字が浮かんできたのです。

絆を太く長くすることが一番の恩返しではないだろうか?と気付いたのです。

マラソンや祭の延長線上に既に事業展開は成り立っていたのです。

今回の「石垣島まつり」「石垣マラソン」への参加目的はその事の確認のためでした。

拠点づくりのための不動産回りや石垣島の現状をもう一度違う視点でとらえてみたかったのです。

「起業する」結論を出すまで、時間は必要ではなかった。

勤めていた会社へ先ずは辞表を出したものの、55歳からの起業は無謀な行為ではないのか、巻き込まれた人達の責任は等、後になってから愚図ついたのでありますが、その度に「雨中の男」を思い起こし、迷いなき決断とは行かなかったものの以後2度とぶれる事はありませんでした。

私はたとえ零細企業であったとしても、昭和時代の企業を目指しています。

個人的見解として現在の株主優先、コスト重視、えせ顧客満足主義の組織を「会社」と言いたくない。

「年功序列」「終身雇用」全てが良いとは言えないが、この制度こそこれからの日本が目指すべき構造改革でないだろうか?と今でもその気持ちは変わっておりません。

「世界標準規格(ISO)を受け入れた時から確実に日本は変わってしまった。

産業の構造改革だけでなく経済や果ては政治まで、そして最も変化をもたらしたのは日本人の精神構造だと思っている。

誰が何を目的として創造したかはウィキペディアには載ってはいるが、何かとてつもない恐怖を感じるのは私だけでしょうか。

儒教と仏教が混在した独自の文化を創った日本、そして「結」という地方文化を根付かせた民族はそれほど多くはない。

昭和30年代に生まれ育ってきたわたしにとって「年功序列」「終身雇用」という社会制度は今でも世界に誇る日本文化であると信じて止みません。

確信を得た以上、起業する事にためらいはありませんでした。

一旦、組合形式をとりますが理想の組織を創造し続けることを決心し、「かけはし物産 企業組合」を立ち上げることにしました。

「かけはし物産 企業組合」は利潤追求ではなく利益を求めて活動する組織である。

私たちの唱える利益とは、顧客の満足する商品創りは当然のことながら、それをどうすれば創れるのか、どうすれば喜んでもらえるのかを追求する事です。

当然ながら「年功序列」「終身雇用」、個人評価からチーム力評価へ、個人または組合員のモチベーションアップをもっとも大事に捉えた社風、そこから生まれる数々のかけはしブランド商品は必ずお客様に満足

提供出来ると信じています。

「かけはし物産 企業組合」は2011年6月に誕生する予定です。南国の食材と北国の食材が彩成す「既存商品」改良型商品、「創造型」新商品のラインナップ、それに伴う参加企業商品の再アピール、各福祉施設や学校関連相互の観光及びリハビリステータ等閑散期におけるホテル稼働率アップのための交流事業など確実にひとつずつ事業化していくつもりです。

さて、本文(前文まで)を打ち込み中の3月11日午後2時46分、日本人は生涯忘れる事の出来ない大災害に見舞われました。

何から考え、何を優先し、何から手をつければよいか分からず浮足立つ人々、電気が来ない、水が出ない、コンビニやスーパーマーケットに群がる人々、春まだ遠く氷点下の震える夜を何日も蠟燭の火で夜を明かし、やっと電球に明かりが灯った時の感激もつかの間で、テレビの画面から飛び込んできた被災地の凄まじい惨状は…… 表現出来ない……。

目の前で、もう少しで手の届くところで、我が子が妻が母が父が濁流に呑みこまれていく惨劇を伝える言葉はこの世には無いであろう。

……………合掌……………

しばらくして沖縄の離島から心のこもった支援物資(黒糖)が岩手に到着しました。

「かけはし交流協会」高橋会長の号令のもと、黒糖を満載したライトバン数台が会員有志の方々によってそれぞれの被災地に向かいました。

私も運転手として被災地へ向けハンドルを握りましたが、画面と現実とはそれはかけ離れた世界が広がっており、感情よりも先に涙があふれていました。

瓦礫の荒野にたたずむ老人や母と娘と思える親子が肉親を探している光景に奥歯を碎けんばかりに噛んでいました。

今回「恩」というより「温かく強いメッセージ」をまたもやいただきました、

今再び感謝を心の中で唱え、「かけはし物産 企業組合」という媒体をとおして必ずや「恩」に報いることを心に焼印し、残りの人生命ある限り、五里霧中へ突進する覚悟であります。

石垣島・波照間島・竹富島・粟国島・西表島・宮古島の皆さま、甘くあったかい黒糖をメッセージとともに被災地へ確実にお届けいたしました。

本当に本当に ありがとうございます。

事務局だより

協会発足以来、10回目の石垣島交流ツアーが今年も1月21日から3泊4日の日程で、チャーター便満席の144名参加のもと、楽しく賑やかに開催されました。通算では17回目の石垣島マラソン大会関係者61名と観光団83名は近年にない天候にも恵まれ、それぞれの想いでツアーを楽しんで頂き、帰りの飛行機は和気あいあいの雰囲気です。帰省することができました。

ことにも、今年石垣市側でも交流の受け皿として「石垣・岩手かけはし交流協会」が設立されたことにより、いつにない200名を超える盛大な交流パーティーが開催され、参加者一同感激、感動一杯の交流の場面をいくつも見る事が出来ました。

帰省後も関係記事を見た方々から、更なる展開への激励のメッセージが届き、この交流が、益々発展できる可能性を実感しているところです。

当協会としても来年度以降の新たな発展を目指すべく、会員皆様のご協力を頂きながら事業展開を図って行きたいと思っている次第です。

追記)

広報誌「かけはし21号」を3月末に発行予定で準備の最中に東日本大震災が発生し、年度を超えての発行となり遅れましたこと、投稿者及び会員の皆様にお詫び申し上げます。

震災対応では、石垣市を始め沖縄の皆様から多くのお見舞いと、激励のメッセージや来県も頂いております。今後も各種支援がある予定ですので、その対応につきまして、引き続き会員皆様のご協力をお願いいたします。